

## MS912M メモリ機能設定ガイド



### はじめに

---

MS912M のメモリ機能には、自動モードとバッチモードの 2 種類が存在します。2 つの主な違いは次のようになります。

バッチモード	リアルタイムなデータ送信は行われず、メモリへのデータ保存のみが行われます。データの送信には、 <u>データ出力バーコード</u> を使用します。 データ保存用のメモリ容量は 2MB (20,000 バーコード) です。 メモリ内のデータは、自動電源オフ (標準設定：無操作 3 分間) が行われるまでは揮発性データとなっており、自動電源オフされた時に不揮発性データとなります。 <u>揮発性データ時は、リセットスイッチ押下またはバッテリー切れによりデータが消去されますのでご注意ください。</u>
自動モード	通信接続中はリアルタイムなデータ送信、通信切断中はメモリへのデータ保存に自動で切り替わります。通信切断中に保存されたデータは、通信再接続時に自動的に送信されます。 自動モード時に保存されたデータは、送信が完了するか本機の電源がオフになると自動的に削除されます。

本書に掲載されている設定は、バッチモードでのみ使用可能となっています。

## メモリ機能の変更

---

R001\$



バッチモード

R002\$



自動モード (標準設定)

## メモリ内データの削除

---

R004\$



全データを削除

R005\$



最後のデータだけを削除

## メモリ内のデータを全て出力する

---

R003\$



データ出力

※ データ出力後のメモリクリア機能はありません。

## データの出力先を変更する

---

※ 本体バージョン「SM3-c-1.32.BTA.MEM-UD」以降は使用できません。該当バージョンではユーザーマニュアルのインターフェース変更をご使用ください。

R014\$



Bluetooth (標準設定)

R013\$



USB 仮想 COM

メモリ内のデータを Bluetooth 経由で出力する場合：

1. **Bluetooth** をスキャン
2. **データ出力** をスキャン

メモリ内のデータを USB 仮想 COM 経由で出力する場合：

1. USB 仮想 COM ドライバをインストール (初回のみ)
2. ホスト PC と MS912M を USB ケーブルで接続
3. **USB 仮想 COM** をスキャン
4. データ取得用ツールの **Conver to CSV** を実行
5. **データ出力** をスキャン

※ ドライバインストールやツールの使用方法は本書の最後に掲載されています。

## データ出力フォーマットを変更する

.R011\$



データフォーマット

標準値は「<バーコードデータ>」です。

各項目のセットアップコードは次の通りです。

コード	項目	コード	項目
1	Item No.	3	時間
2	日付	4	バーコードデータ

### データフォーマットの変更方法

例：<Item No.>,<バーコードデータ>,<日付>,<時間>に変更する

1. **データフォーマット**をスキャン
2. 6 ページの数字を [1] [4] [2] [3] とスキャン
3. **データフォーマット**をスキャン

例：<日付>,<バーコードデータ>に変更する

1. **データフォーマット**をスキャン
2. 6 ページの数字を [2] [4] とスキャン
3. **データフォーマット**をスキャン

## フィールドセパレータを変更する

.R010\$



フィールドセパレータ

標準値は「カンマ (, )」です。ASCII テーブル (6 ページ) の英数字記号と置き換えることができます。

### フィールドセパレータの変更方法

例：カンマ (, ) をセミコロン (;) に置き換える

1. **フィールドセパレータ**をスキャン
2. ASCII テーブルの [ ; ] をスキャン
3. **フィールドセパレータ**をスキャン

## 日付・時間を変更する

.R006\$



日付変更

### 日付の変更方法

例：2013年08月01日に変更する

1. **日付変更**をスキャン
2. 6ページの数字を [1] [3] [0] [8] [0] [1] とスキャン
3. **日付変更**をスキャン

.R007\$



時間変更

標準値は「00時00分00秒」です。

### 時間の変更方法

例：08時25分40秒に変更する

1. **時間変更**をスキャン
2. 6ページの数字を [1] [3] [0] [8] [0] [1] とスキャン
3. **時間変更**をスキャン

※ 設定した時間は、バッテリーが無くなると標準値にリセットされます。

## 日付フォーマットを変更する

.R008\$



日付フォーマット

標準値は「DD/MM/YYYY（コード=09）」です。

各項目のセットアップコードは次の通りです。

コード	項目	コード	項目
1	DD-MM-YYYY	9	DD/MM/YYYY
2	MM-DD-YYYY	10	MM/DD/YYYY
3	DD-MM-YY	11	DD/MM/YY
4	MM-DD-YY	12	MM/DD/YY
5	YYYY-MM-DD	13	YYYY/MM/DD
6	YY-MM-DD	14	YY/MM/DD
7	DD-MM	15	DD/MM
8	MM-DD	16	MM/DD

### 日付フォーマットの変更方法

例：YYYY/MM/DD（コード=13）に変更する

1. **日付フォーマット**をスキャン
2. 6ページの数字バーコードを [1] [3] とスキャン
3. **日付フォーマット**をスキャン

## 時間フォーマットを変更する

.R009\$



時間フォーマット

標準値は「HH:MM:SS (コード=01)」です。

各項目のセットアップコードは次の通りです。

コード	項目	コード	項目
1	HH:MM:SS	2	HH:MM

### 時間フォーマットの変更方法

例：HH:MM (コード=02) に変更する

1. 時間フォーマットをスキャン
2. 6 ページの数字を [0] [2] とスキャン
3. 時間フォーマットをスキャン

## キーボードレイアウトを変更する

.C010\$



英語キーボード (標準設定)

.C009\$



日本語キーボード<106 キー>




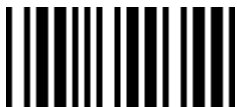






出力するホストの環境によってキーボードレイアウトを適切に変更する必要があります。日本語環境で英語キーボードを使用すると、例えばコロン (:) がプラス (+) になって出力されます。

Android OS は日本語環境でもキーボードレイアウトが英語の機種が存在しますのでご注意ください。

# ASCII テーブル






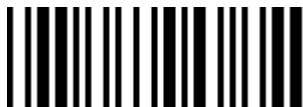

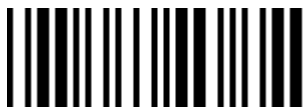







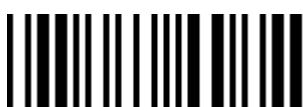
---

## 数字

	1	6	
	2	7	
	3	8	
	4	9	
	5	0	

## アルファベット

	A	a	
---	---	---	--

	B	b	
	C	c	
	D	d	
	E	e	
	F	f	
	G	g	
	H	h	
	I	i	
	J	j	



K

k



T

t



L

l



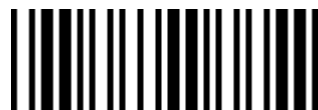
U

u



M

m



V

v



N

n



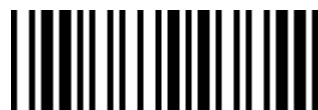
W

w



O

o



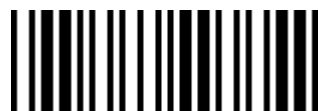
X

x



P

p



Y

y



Q

q



Z

z



R

r



S

s



## 記号

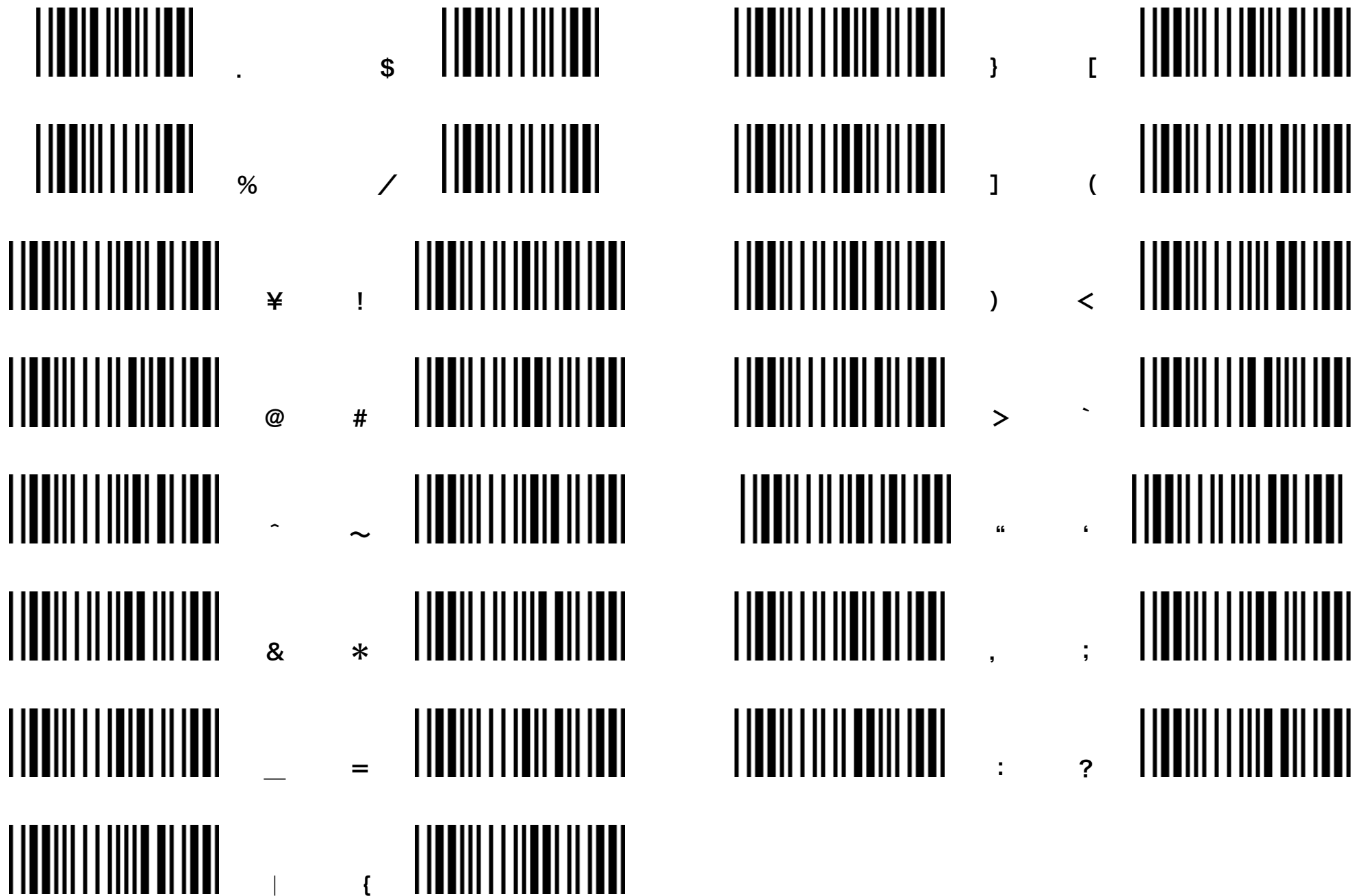
※ 日本語環境で日本語キーボードレイアウトを使用した際の表示です。



+

-







## USB 仮想 COM ドライバのインストール (Windows)

1. USB 仮想 COM ドライバを任意のフォルダに解凍します。
2. 付属の USB ケーブルを使用して、MS912M とホスト PC を接続します。
3. **バッチモード**バーコードを MS912M でスキャンします。
4. **USB 仮想 COM** バーコードを MS912M でスキャンします。
5. ドライバのインストールに失敗しますが、そのまま続けます。
6. USB 仮想 COM ドライバを解凍したフォルダを開きます。

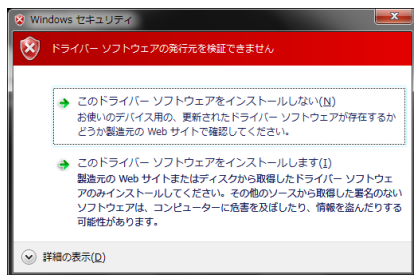
### ■ 64bit OS の場合、

7. **DPIInst\_x64.exe** をダブルクリックします。

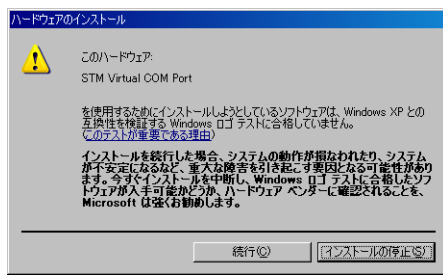
### ■ 32bit OS の場合、

7. **DPIInst\_x86.exe** をダブルクリックします。

8. セキュリティ警告のメッセージが表示されたら、**このドライバーソフトウェアをインストールしますまたは続行をクリックします。**

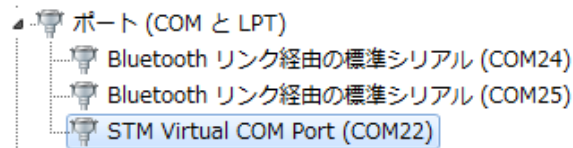


Windows7 SP1



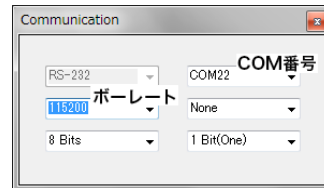
WindowsXP SP3

9. ドライバのインストールが完了すると、デバイスマネージャーに **STM Virtual COM Port (COM??)** と表示されます。

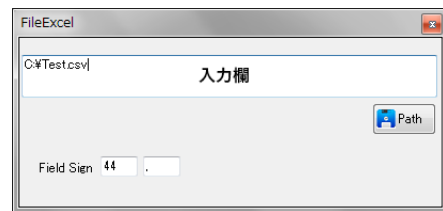


## Convert to CSV の使い方

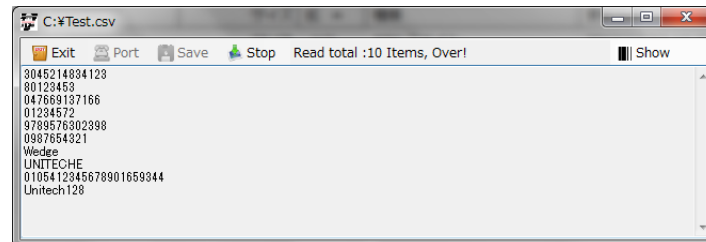
1. **Convert to CSV (Vx.x).exe** を実行します。
2. 上部メニューの **Port** をクリックします。
3. COM 番号を MS912M の使用している番号へ変更し、ボーレートを **115200** に変更してから、**x** をクリックして閉じます。



4. 上部メニューの **Save** をクリックします。
5. 入力欄に直接書込むか、**Path** をクリックして保存するフォルダとファイル名を指定してから、**x** をクリックして閉じます。



6. 上部メニューの **Load** をクリックすると待ち受け状態になります。
7. MS912M で **データ出力**バーコードをスキャンするとデータが画面に表示され、同時に指定したフォルダに CSV ファイルが作成されます。



8. 終了するときには **Stop** をクリックして待ち受け状態を解除してから、**Exit** をクリックしてください。